

## 相馬・南相馬 震災支援プロジェクト報告（10月）

担当：後藤一子

下記の通り、10月の活動を報告します。

### 10月4日（木）クラッシュ・ジャパン ミィテングに参加

9月の活動報告が行われた。小坂忠師のコンサートは大変喜ばれ、励ましを与えられたとのこと。また、今月の予定、開催地を検討し、新しく「新地がんご屋仮設住宅」が予定された。他、「小池長沼仮設住宅」でも行う予定。

30, 31日は同盟基督教団茅ヶ崎教会員の支援を受け、「トーンチャイムで歌おう」という催事を、大野台とがんご屋仮設で開催されることが確認された。

12月はクリスマスプレゼントを用意することが話された。

### 10月8日（月） 福島震災を語る会が須賀川シオンの丘教会に参加した。

10月10日（水） 図書館で読み聞かせのための絵本を借りる。午後「新地がんご屋仮設住宅」に「おはなカフェ」の案内を120部配布する。

### 10月11日（木） ミニコンサート用の歌詞の準備、コピー（教会）

10月2日（金） 新地がんご屋仮設住宅にて、「おはなカフェ」「絵本の読み聞かせ」「ミニコンサート」を開催

相馬教会と恵泉教会大喜多師と牛久恵泉教会から支援者がある。仮設住宅から11名の参加者と3名の幼児の参加があった。初めての場所でしたので少し不安であったが、責任者の協力があり、よい会となったことを感謝したい。

この仮設にお住まいの方々は、富岡町双葉町・浪江町・小高区などの方々で、主に放射能からの被避難者である。全く自宅に戻れない人達。この内特に小高区の方々については、家を失ったり、戻ることが困難となっていることを話してくださった。「いつ帰れるかわからないし、草が辺りを覆っている」と涙しながら笑顔で語っておられた。これからも、ゆっくりと交わり寄り添っていこう、と思う。

### 10月15日（月）大野台仮設住宅へ集会場を訪ねる。

20・22日に行われる支援の用意をする。第8仮設と第4仮設住宅を借りる手続きを済ませた。

### 23日（火）「トーンチャイムで歌おう」の案内作成

約300部を教会でコピーする。

24日(木) 午後小池長沼仮設住宅へ催事案内を配布(200部)

26日(金) 小池長沼仮設住宅にて「お花カフェ」「ポプリ作り」と「ゲーム」を開催。

支援者は17名の体制。少しのんびりと始める。葛西師のゲームで盛り上がる(じゃんけんゲーム/電話ゲーム)。

顔なじみの方々が多く、和やかにポプリ作りを楽しむ。ローズとラベンダーの香りを包み、リボンで結びお花を飾る「ポプリ」。笑顔と歓声で良きときとなった。70代の婦人が29歳の娘を津波で失った悲しみの中でこれを飾ると言って涙を誘う。孫が小さいので可哀そうとも言われた。帰りに一人の男の子が支援者の一人といつまでも遊んでいたことが印象に残る。



10月27日(土)午後 雨天の中、大野台第4. 第8仮設に案内配布

10月28日(日)午後 雨天の中、新地がんご屋に案内配布

10月30日(火) 大野台第仮設住宅にて「トーンチャイムで歌おう」開催

支援者は15名。初めての所なので集まりが悪いと思われ、戸口で一軒一軒声をかけてみる。参加者は20名であった。

トーンチャイムで童謡紅葉や故郷、里の秋等を楽しむ。一緒に楽器を鳴らし、歌うという作業に一生懸命になり声をだしていることに喜びを感じてくれた。又、稲津姉の巧み身体と頭を使った体操を楽しみ、「とんとんとんからりん隣組」の歌で若き日を思い起こした。

手作りのカステラでお茶を楽しむ。浪江地区の方たちは、家へは帰れないこと、家族が離れていることを話してくれた。「鉄道所唱歌」の替え歌を歌いながら涙し、これからのことに不安を語りつつ、生きていることの不思議に心をはせていた。

名取の方々は、津波で帰る家が無いと嘆く。また、ストレスで癌になり治療を受けていることなどを話して下さった方もいた。

## 10月31日(水) 新地がんご屋仮設住宅にて「トーンチャイムで歌う」開催

参加者は、大人9名と幼児3名。支援者は、茅ヶ崎教会などから計20名。

自治会のご厚意を頂き、で良き会となり、「トーンチャイム」を楽しむ。今回は小高地区の方や新地釣師地区の方も参加。家を失い、戻るべきところが無いことなどで子どもの頃や育った町のことを懐かしんで話をされた。慰める言葉がなかった。茅ヶ崎教会の方の手作りクッキーやカステラでお者を楽しみ、タオル体操で心と体を動かし小さなプレゼントも出来た。

一か月の働きを終え、被災者からうかがう話を反芻している。出会う人々にこの話を伝えつつ、次の支援に備えている。

